

平成 26 年度
新たな公共プロジェクト実施報告書

平成 27 年3月
新たな公共プロジェクト事務局

目次

I. 新たな公共プロジェクトの実施に当たって	1
1. 新たな公共プロジェクトとは	1
(1) プロジェクト実施の経緯	1
(2) 本プロジェクトにおける新たな公共の担い手の創出	1
(3) 本プロジェクトの特徴	2
2. 本年度の重点テーマの選定	5
(1) 重点テーマ選定に当たって考慮した視点	5
(2) 重点テーマ	5
3. 昨年度の課題への対応	6
II. プロジェクトの実施結果	9
1. 実施プログラム	9
(1) プログラムの概要	9
(2) 年間実施スケジュール	11
2. 参加者数・参加者属性	12
(1) 参加者数	12
(2) 参加者属性	13
3. プロジェクトを通じて生まれた課題解決プロジェクト等	14
(1) 支援プロジェクト	14
(2) 登録プロジェクト	14
(3) 社会起業アクション・ラーニング講座受講生のプロジェクト	15
4. 担い手と担い手を支える人が交流できる基盤の構築	15
III. プロジェクトの成果	17
1. プロジェクトの評価軸の設定	17
2. プロジェクトの評価	17
IV. 今後のプロジェクト実施に向けて	27

I. 新たな公共プロジェクトの実施に当たって

1. 新たな公共プロジェクトとは

(1) プロジェクト実施の経緯

区では平成24年4月に新たな公共の担い手専門家会議（以下「専門家会議」という。）から提出された提言「文京区と新たな公共の担い手との協働の推進～文京区から始まるソーシャルイノベーションに向けて～」の実現に向け、区の実現方針を定めました。この方針に基づき、25年4月から、対話等を通じて地域の多様な主体が関わり合いながら、地域課題の解決を図る担い手を創出していく「新たな公共プロジェクト」（以下「本プロジェクト」という。）の取組を実施し、より豊かな地域社会の実現を図っていくこととしました。

(2) 本プロジェクトにおける新たな公共の担い手の創出

地域課題が複雑かつ多様化する中、行政だけの対応ではニーズを十分満たせないというケースがあります。また、区としては踏み込みにくい課題もあります。

区では対応できないケースについては、地域活動団体やNPOが対応している状況もありますが、積極的に地域と関わりを持たない人もおり、既存の枠組み以外の取組も求められています。

本プロジェクトでは、既存の枠組みを尊重しながらも、「新しい発想」や「新しい手法」で地域課題の解決に取り組む、新たな公共の担い手（以下「担い手」という。）の創出を中心に取組を実施することとしました。

【担い手創出に当たり重視した視点】

1) 地域の課題解決に貢献があること

担い手が実施するプロジェクトは、その目的・ミッションの中で、区民の地域課題の解決に寄与することが明記されていることを必要としました。

2) 区民による自発的・主体的な取組であること

担い手が実施するプロジェクトは、区民が中心となる自発的・主体的な取組であることを必要としました。

3) 継続的に運営でき、成果を多くの区民に還元できること

担い手が実施するプロジェクトは、継続的に運営することができ、活動の成果をできるだけ多くの区民に還元することを必要としました。

4) 「私益」や「共益」のためではなく、「公益」のための活動を行うこと

担い手が実施するプロジェクトは、「私益」（自分のため、自分のやりたいことの実施）や、「共益」（自分の仲間のための実施）ではなく、「公益」（多くの区民のための実施）のための活動であることを必要としました。

(3) 本プロジェクトの特徴

1) 幅広い区民が参加できる仕組みの構築

本プロジェクトにおいては、引き続き地域で活動する担い手の裾野を広げるため、地域活動に関心のある人が、各ステージに応じて参加できるプログラムを提供しました。各プログラムには、関連性を持たせており、本プロジェクト中でステップアップできるようにしています。

また、これから地域活動を始める人や、既に地域活動している人と区民とが交流できる多様なプログラムを提供することで、「地域の仲間が欲しい」、「地域で何かしたい」と思っている人の出会いの場となるなど、区民が地域活動に参加する方法としては様々な関わり方があることを提案しました。

さらに、地域活動を地域に着実に根付かせるためには、「担い手を支える人たちのコミュニティ」の構築も必要となることから、その立ち上げ支援を行いました。

2) 活動の継続力向上に焦点を当てたプログラムの提供

従来の地域活動支援は、団体が提案したプロジェクトの実行に対して助成金という形で支援を行うものが多く見られます。本プロジェクトでは、提案されたプロジェクトの実施に着目するだけでなく、提案されたプロジェクトが支援終了後も、引き続き区内で、自立的、継続的にサービスを提供することを目指しています。そのため、プロジェクトを継続するための事業基盤づくりや、地域のステークホルダーとの関係性づくりに対して積極的な支援を行いました。

また、本区に拠点を置き様々な分野で活動している NPO 法人は数多くあります。本プロジェクトでは、区民が身近な NPO の活動を知り、交流できる機会をつくり、NPO 同士が協力できる関係性が生まれる仕組みとして、新たに「文京区 NPO 活動 PR フェア」を区内 NPO 法人と協働して実施しました。この取組により、新たな協力者の獲得等、団体活動の継続に資する支援を行いました。

3) SNS 等新たなメディアを活用した広報戦略

人と人のつながりを広げる取組として、特設サイトや、SNS (facebook、Twitter)、メールマガジンの運営等、多様な広報媒体の特性を活かした広報を戦略的に行うことにより、地域活動に関心のある人へ情報を確実に届ける発信に努めました。特に、SNS による情報発信は、「人」に着目して、地域で活動している団体や人、各プログラムの参加者の様子をリアルタイムで伝えることに努めました。これにより、地域活動に少しでも関心のある人たちに、「プログラムに参加してみよう」「自分も何かしてみよう」と思ってもらうことにより、各プログラムの集客力を高めることができました。

4) 全庁的な取組

本年度も引き続き、協働推進委員会（以下「委員会」という。）及び協働推進委員会担い手創出プロジェクト支援本部（以下「本部」という。）の運営を行い、全庁を挙げた取組を行いました。

た。また、支援プロジェクト団体に対する担当課との連携支援や、各プログラムへの職員の参加、協働推進に関する職員研修の実施により、組織全体の意識向上、風土改革に取り組みました。

協働推進委員会名簿

番号	職	氏名	所属
1	委員長	八木 茂	区民部長
2	副委員長	境野 詩峰	区民部協働推進担当課長
3	委員	竹越 淳	企画政策部企画課長
4	〃	林 顕一	総務部総務課長
5	〃	石嶋 大介	区民部区民課長
6	〃	山崎 克己	アカデミー推進部アカデミー推進課長
7	〃	木幡 光伸	福祉部福祉政策課長
8	〃	椎名 裕治	男女協働子育て支援部子育て支援課長
9	〃	小澤 信雄	保健衛生部生活衛生課長
10	〃	高橋 征博	都市計画部都市計画課長
11	〃	遠藤 道雄	土木部管理課長
12	〃	小野 光幸	資源環境部環境政策課長
13	〃	廣瀬 誠一	施設管理部施設管理課長（事務）
14	〃	内野 陽	教育推進部庶務課長

協働推進委員会担い手創出プロジェクト支援本部名簿

番号	職	氏名	種別	備考
1	本部長	八木 茂	区職員	区民部長
2	本部員	安藤 哲也	識見者	NPO 法人ファザーリング・ジャパン代表理事 NPO 法人タイガーマスク基金代表理事
3	〃	井上 英之	識見者	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘准教授
4	〃	各務 茂夫	識見者	東京大学教授 産学連携本部イノベーション推進部長
5	〃	菊地 端夫	識見者	明治大学経営学部公共経営学科准教授
6	〃	丁 寧	識見者	日中の未来を創る会共同代表 SVP 東京パートナー
7	〃	石嶋 大介	区職員	区民部区民課長
8	〃	境野 詩峰	区職員	区民部協働推進担当課長

（各種別 50 音順）

5) 専門家など多彩な協力者の確保

本プロジェクトでは、専門家会議委員に引き続き本部員として全体の進行管理に協力をいただくとともに、プロジェクトの委託事業者も「パートナー事業者」と位置付け、仕様書に基づく単純な委託ではなく、事業の企画と実施を行う事務局を区と協働して運営する体制をとりました。

また、各地で先進的な取組をされている方や、様々な分野の専門家に、各プログラム等のゲストやメンターとなって本プロジェクトに協力いただくことにより、多様な視点を持った事業展開を可能としました。

【協力者リスト 25人】

(敬称略、順不同)

実施プログラム	協力者（主な肩書き）
社会起業講座 「地域活動応援講座」ゲスト講師	斉藤 保（(株) イータウン代表取締役／港南台タウンカフェ代表）
文京ミ・ラ・イ対話ゲスト	今村 亮（認定 NPO 法人カタリバ カタリバ事業部統括ディレクター）
	不破 牧子（NPO 法人ダイバーシティ工房 代表理事）
	磯井 純充（一般財団法人森記念財団 普及啓発部長）
文京区 NPO 活動 PR フェア準備会 ゲスト	善木 真理子（認定 NPO 法人カタリバ 広報・ファンドレイジング部サブディレクター）
文京区 NPO 活動 PR フェア ゲスト	加藤 徹生（一般社団法人 World in Asia 理事）
文京区 NPO 活動 PR フェア参加 団体交流会 ゲスト	田村 治顕（180 Degrees Consulting 代表）
支援プロジェクト メンター	木村 乃（ビズデザイン(株) 代表取締役）
	大石 弥生（(株) ヴィーヴ 代表取締役）
	河野 良雄（NPO 法人 キャンナス理事）
文京社会起業アクション・ラーニング講座 ゲスト講師	松崎 英吾（日本ブラインドサッカー協会 事務局長）
文京社会起業アクション・ラーニング講座 メンター	齊藤 充（合同会社えんたらいふ 代表）
	石川 理麻（編集者／ライター／学校講師）
	坪田 哲司（合同会社次世代創造 代表社員 地域・社会共創プロデューサー）
	野田 香織（NPO 法人 ETIC. インキュベーション事業部プログラムチームリーダー）
	栗原 知也（NPO 法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京 パートナー）
	猿渡 由実子（NPO 法人 ETIC. インキュベーション事業部コーディネーター）
	藤井 美明（公認会計士／あらた監査法人職員）
	村瀬 正尊（(株) マチヅクリ・ラボラトリー代表取締役）

	山中 資久 (NPO 法人 ETIC. インキュベーション事業部アシスタント・コーディネーター)
	澗上 周平 ((株) タイヒバン監査役)
文京社会起業フェスタ 2015 ゲスト	齊藤 志野歩 (まち暮らし不動産運営 / (株) N9.5 代表取締役)
	井上 英之 (慶應義塾大学大学院特別招聘准教授)
事務局 勉強会講師	五井 利明 (NPO 法人 CR ファクトリー 事務局長)
	秋元 祥治 (NPO 法人 G-net 代表理事)

2. 本年度の重点テーマの選定

(1) 重点テーマ選定に当たって考慮した視点

本プロジェクトの実施に当たり、本年度重点的に区民と協働して地域課題の解決を図るための重点テーマを選定するため、以下の視点を設定しました。区の各部からは、行政だけでは対応が難しいテーマを中心に推薦が出されました。

【考慮した視点】

- 1) 文京区基本構想の実現に資するもの
- 2) 文京区でニーズのあるテーマであり、既存の枠組みを超えて対応することでより高い効果が期待できるもの（全国的にもニーズのあるテーマであるとなおよい。）
- 3) テーマに対して区民の関心が高く、新たな公共の担い手が事業化のアクションをする際に地域の理解や応援が得られやすいもの
- 4) 新たな公共の担い手が事業化を進める過程（試行段階、成長段階など）において、文京区の社会資源を有効に活用できるもの
- 5) テーマに対して事業化がイメージしやすく、起業ニーズが考慮されているもの

【各部からの推薦テーマ】

① 安全で安心なまちづくり (総務部)
② 商店街の利用促進について (区民部)
③ 2020 東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げるための方策について (アカデミー推進部)
④ 地域支援事業における多様な担い手の創出 (福祉部)
⑤ すべての子どもたちが輝く未来を持てる社会へ (福祉部)
⑥ 中高生の育成について (男女協働子育て支援部)

(2) 重点テーマ

区の各部からの推薦テーマを踏まえ、委員会において検討し、次の2つを重点テーマに選定しました。

重点テーマ

「暮らしやすい文京区を実現する地域力」

文京区は都心に近く、生活利便性がとても高い地域です。それゆえに、地域とつながらなくても生活していけると考えてしまいがちですが、毎日暮らす街の安心感を高め、暮らしの豊かさの幅を広げるうえで、地域のつながりをつくっていくことは重要です。文京区をより暮らしやすく、元気なまちにしていくために地域の力を高めます。

「まちで健やかに子どもが育つ文京区」

かつて子ども達には、家庭、学校に加えて、地域にも居場所がありました。生まれてから地域の人と関わりを持ちながら育ち、近隣の学校に通っていた状況が変化していく中で、子どもと地域のつながりは薄れつつあります。子どもが地域の中で自分の居場所を見つけ、健やかに育てる文京区をつくります。

3. 昨年度の課題への対応

本年度、各プログラムを実施するに当たり、昨年度の報告書で挙げた5つの課題については次のような工夫をしながら取り組みました。

【課題1】

プロジェクト支援は、「継続力向上支援」と「展開力向上支援」の区分を設けていますが、事業モデルが安定的に運営できている団体を対象にした「展開力向上支援」の区分に該当するような団体のプロジェクト登録への参加はありませんでした。今後は、本プロジェクトの取組について、区内外の団体に積極的にアプローチするなどして、当初から課題解決のインパクトが期待できる団体の参加を促していきます。

■対応

本年度のプロジェクト支援を実施するに当たっては、既に他地域で活動をしている実績のあるNPO等の団体への呼びかけを行うとともに、プロジェクト支援制度説明会を2回に亘り実施し、区内で活動している団体へのプロジェクトの登録の呼びかけを積極的に行いました。

これにより、実績のある団体や社会起業講座修了生などのプロジェクト8件が登録されましたが、選考の結果「展開力向上支援」の区分に該当するプロジェクトはありませんでした。

【課題2】

プロジェクト支援は、4か月を1クールとして支援してきましたが、選考の際に本部から指摘された事項等を反映した、事業計画を固めるまでに、支援期間の半分程度を使ってしまう状況にあります。今後は、プロジェクト登録から選考までの期間中の事業計画のブラッシュアップに対する支援を強化する方策を検討していきます。

■対応

本年度は、プロジェクト支援を申込む時点での事業プランのレベルアップを図るため、「プロジェクト

登録団体会議「成長戦略ワークショップ」を新たに設けました。会議やワークショップでは、改めて求める事業の水準について説明するとともに、事業プランの考え方や整理の仕方を丁寧にアドバイスすることで、各プロジェクトのレベルアップを図りました。

【課題3】

プロジェクト登録をした団体については、登録後、継続して情報交換をする仕組みがなく、団体と事務局間の意思疎通が十分とは言えませんでした。今後は、登録団体と事務局が入るメーリングリストの運営等により、継続的な情報交換に努め、各プログラムへの参加を促していきます。

■対応

昨年度のプロジェクト支援団体、プロジェクト登録団体、文京社会起業アクション・ラーニング講座（以下「社会起業アクション・ラーニング講座」という。）修了生の活動情報の把握や日頃の情報交換を支援するため、メーリングリストの運用を行いました。また、このような地域活動の担い手と担い手を支える人たちのコミュニティとなる交流会の立ち上げ支援も行ったことにより、自主的な勉強会等が定期的に開催されるようになりました。

【課題4】

社会起業アクション・ラーニング講座で講師を務めた、NPO法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京の岡本拓也代表は、海外の事例を日本に合うように改良して自身の団体を立ち上げたと話されていました。自分の思いを整理し、ゼロから事業をつくっていくことも大事ですが、その実現には多くの時間を要します。「何かしたい」と思っている人の事業づくりを促進させる方法として、今後は、既存活動の型を学び自身の事業づくりに活かすといったことを強化した講座についても実施していきます。

■対応

5月に実施した地域活動応援講座「コミュニティづくりを仕事にするには？」では、昨年度の文京社会起業フェスタ2014のゲストの斉藤保氏を講師に招き、コミュニティカフェの経営手法を実例にしてソーシャルビジネスの型を学べるようにし、受講生で希望する人は、現場視察とその運営に関わっているスタッフとの交流も行えるようにしました。また、1月に実施した社会起業アクション・ラーニング講座では、日本ブラインド・サッカー協会事務局長の松崎英吾氏を講師に招き、事業の協力者を拡大していく際実践していることを紹介していただくなど、地域活動をしたい人の事業づくりに即効性の高いプログラムとなるように工夫して講座を実施しました。

【課題5】

広報面では、facebook等新たなメディアを活用した積極的な戦略が功を奏し一定の成果が上がりましたが、より多くの区民に本プログラムの実施をPRし参加を促していくには、十分とは言えません。今後は、これまでの参加者に協力を得られるようなPR方法や、SNSでシェアされやすい情報の掲載方法の検討などにより、広報戦略の更なる強化も図っていきます。

■対応

区報や特設サイト等を活用した告知をこれまでと同様に実施するとともに、新たにプロジェクト登録団体等への広報協力の働きかけを実施しました。またfacebookについては拡散効果が高い「シェア」さ

れることを念頭に、例えば、NPO 活動 PR フェア参加団体の情報をイベント前から戦略的に配信したことや、文京社会起業フェスタ 2015 参加プロジェクトの情報を発表者の顔がわかるように配信した結果、集客目標を上回る参加者を得ることができました。

II. プロジェクトの実施結果

1. 実施プログラム

(1) プログラムの概要

実施プログラム	概要
社会起業講座等	
地域活動応援講座 ①「コミュニティづくりを仕事とするには？」(5/11) ②「コミュニティ事業のプランづくりのコツ」(5/14)	2014年度の新たな公共プロジェクトの導入講座として、2013年度の社会起業アクション・ラーニング講座の修了生を始め、地域課題の解決にビジネスの手法を活かして取り組みたい人たちを対象に、地域のつながりづくりを事業化するためのノウハウや、コミュニティ事業のプランづくりのポイントを学ぶ講座を実施しました。
社会起業アクション・ラーニング講座 (10/23～3/5 全7回講座)	地域課題の解決を継続・発展する事業としていくために、ビジネスとするための手法やプロセスを学ぶとともに、受講者が地域の中で試行やアクションを行いながら実践力を身に着けるための連続講座を実施しました。
文京社会起業フェスタ 2015 (2/11)	2014年度の社会起業アクション・ラーニング講座受講生、プロジェクト登録団体、プロジェクト支援団体が一堂に会し、プロジェクトの実施者と区民が出会い、つながれる機会とするためのイベントを実施しました。
プロジェクト支援制度	
プロジェクト支援制度説明会 (5/29、5/31)	プロジェクト登録・支援を希望する人向けに、制度及び支援内容の説明会を開催しました。
プロジェクト登録	プロジェクト支援の候補となるプロジェクトをストックし、プロジェクトの発展を支援することを目的に、地域課題の解決プロジェクトを団体に登録してもらい、そのプロジェクトの特設サイトへの掲載や、文京社会起業フェスタ 2015での区民等との意見交換の機会提供などを通じた事業化支援を実施しました。
プロジェクト登録団体会議 (6/23) / 成長戦略策定ワークショップ (6/29)	プロジェクト登録を行った団体を対象に、プロジェクト支援制度の詳細について説明を行いました。また、支援プロジェクトを選考する時点での事業プランの質を上げ、登録プロジェクトとしての成長を促すことを目的に、各々の事業プランをブラッシュアップする「成長戦略策定ワークショップ」を実施しました。
プロジェクト支援 ① 4～7月期 ② 8月～11月期 ③ 12～3月期	プロジェクト登録されたプロジェクトの中から、「文京区の地域課題解決への貢献が大きく、事業として自立的、継続的に展開していく可能性が高い」と判断できるプロジェクトを本部で選考し、その事業構築の総合的な支援を実施しました。

文京区 NPO 活動 PR フェア	
文京区 NPO 活動 PR フェア ①準備会 (5/26,6/30,7/28,8/25) ②フェア (9/7) ③振り返り会 (9/29)	区内に拠点を置き活動する NPO 法人が取り組む社会課題、活動の知恵、ノウハウについて区民がその知見から学べる機会をつくることで、NPO 活動への共感や支援の輪を広げるとともに、団体間の交流を促すイベントを実施しました。イベントの実施に当たっては参加団体と協働で実施するための準備会を重ねて企画を検討するとともに、事後の振り返り会において次年度に向けた改善点等を話し合いました。
対話の場	
文京ミ・ラ・イ対話 (9/28、10/1、11/30、12/3)	本年度の重点テーマについて区民、地域活動団体、NPO 等の地域で活動している人や、対話のテーマに関心のある人が集まり、社会課題の解決に取り組む実践者や区担当者の話から文京区の地域課題を知り、その解決策を考える対話の場を実施しました。
広報（プラットフォーム）	
特設サイト、SNS 等による 情報発信及び ニュースレターの発行 (4月、8月、9月、1月、3月)	特設サイトや、SNS (facebook、Twitter)、メールマガジン、ニュースレター、ポスターによる多様な広報媒体を活用した広報活動を実施しました。
職員研修	
職員研修（協働推進関係）	職員の協働推進に対する意識改革を図るため、職務経験別の研修などを実施しました。

(2) 年間実施スケジュール

月	主な動き	協働推進委員会	担い手創出プロジェクト支援本部 (プロジェクト登録・プロジェクト支援)	対話の場	社会起業講座等	NPO活動PRフェア	広報(プラットフォーム)		職員研修
4							・特設サイト ・facebook ・メルマガ ・twitter	・ニュースレター4月号発行「動き出そう！」 ・ポスター掲示	
5	・地域活動応援講座 ・NPO活動PRフェア準備開始		・プロジェクト支援制度説明会(5/29、5/31)		・地域活動応援講座「コミュニティづくりを仕事とするには？」(5/11) ・地域活動応援講座「コミュニティ事業プランづくりのコツ」(5/14)	・アンケート調査① ・第1回準備会(5/26)			
6	・プロジェクト登録 ・ワークショップ	・第1回委員会(6/18)	・プロジェクト登録申込期間(6/2～6/12) ・プロジェクト登録団体会議(6/23) ・成長戦略策定ワークショップ(6/29)			・第2回準備会(6/30)			・新任研修「協働」 ・NPO等地域団体派遣研修(6月～12月)
7	・支援プロジェクト決定 ・重点テーマ決定	・第2回委員会(7/15)	・第1回本部(7/28) ・支援プロジェクト選考(新規)	・重点テーマ決定		・アンケート調査② ・第3回準備会(7/28)			
8	・プロジェクト支援開始		・第1クール(8～11月支援)			・第4回準備会(8/25)	適宜情報更新・配信	・ニュースレター8月号発行「学ぼう」 ・ポスター掲示	
9	・対話の場開始 ・NPO活動PRフェア		事業構築支援(メンターミーティング、定例ミーティング、ステークホルダーミーティング等)	・第1セッション「地域課題を知る」①(9/28)		・NPO活動PRフェア(9/7) ・振り返り会(9/29)		・ニュースレター9月号発行「踏み出そう！」 ・ポスター掲示	・新たな公共の担い手の協働推進研修
10	・社会起業アクション・ラーニング講座開始			・第1セッション「地域課題を知る」②(10/1)	・社会起業アクション・ラーニング講座第1回(10/23)			・ポスター掲示	・新任研修「協働」 ・協働研修「応用」(10月～11月)
11	・継続支援プロジェクト決定	・第3回委員会(11/12)	・第2回本部(11/25) ・支援プロジェクト選考(継続)	・第2セッション「解決策を深める」①(11/30)	・第2回講座(11/6) ・第3回講座(11/20)				
12	・プロジェクト支援開始		・第2クール(12～3月支援)	・第2セッション「解決策を深める」②(12/3)	・個別相談会①(12/4、12/5) ・第4回講座(12/14)				・協働研修「基礎」
1			事業構築支援(メンターミーティング、定例ミーティング、ステークホルダーミーティング等)		・個別相談会②(1/8、1/15) ・第5回講座(1/22)			・ニュースレター1月号発行「仲間になる」 ・ポスター掲示	
2	・文京社会起業フェスタ				・文京社会起業フェスタ(第6回講座)(2/11)				
3	・年度総括	・第4回委員会(3/20)	・第3回本部(3/30) ・一年の振り返り等		・第7回講座(3/5)			・ニュースレター3月号発行「二年目を振り返る」	

2. 参加者数・参加者属性

(1) 参加者数

各プログラムの延べ参加者数は1,028人(実数¹ 258人)でした。社会起業アクション・ラーニング講座は、受講生が定員を下回りましたが、その他は概ね定員充足率も高く、定員を大きく超えたプログラムもありました。

図表 参加者数

(単位:人、%)

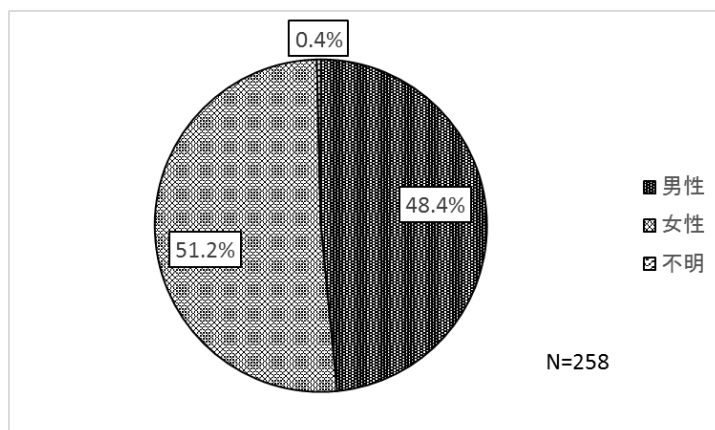
プログラム名	開催日	曜日	場所	定員	申込	事前申込	当日参加	ゲスト等	職員	関係者 (事務局除く)	参加者 合計	定員充足 率	備考
地域活動応援講座 コミュニティづくりを仕事とするには?	5月11日	日	シビックセンター5階 区民会議室	30	49	42	3	1	1	-	47	157%	
地域活動応援講座 コミュニティ事業のプランづくりのコツ	5月14日	水	シビックセンター5階 区民会議室	30	32	21	4	-	-	2	27	90%	
NPO活動PRフェア「準備会①」	5月26日	月	シビックセンター4階 シルバーホール	-	-	-	13	-	-	2	15	-	団体数10
プロジェクト支援制度説明会①	5月29日	木	シビックセンター5階 区民会議室	-	17	13	3	-	-	2	18	-	
プロジェクト支援制度説明会②	5月31日	土	シビックセンター5階 区民会議室	-	14	13	4	-	-	-	17	-	
プロジェクト登録団体会議①	6月23日	月	シビックセンター5階 区民会議室	-	-	-	13	-	-	-	13	-	団体数8
プロジェクト登録団体会議② 「成長戦略策定ワークショップ」	6月29日	日	シビックセンター21階 会議室	-	-	-	15	-	-	-	15	-	団体数8
NPO活動PRフェア「準備会②」	6月30日	月	シビックセンター5階 区民会議室	-	-	-	17	1	-	-	18	-	団体数13
NPO活動PRフェア「準備会③」	7月28日	月	シビックセンター5階 区民会議室	-	-	-	27	-	-	-	27	-	団体数22
NPO活動PRフェア「準備会④」	8月25日	月	シビックセンター5階 区民会議室	-	-	-	27	-	-	-	27	-	団体数21
NPO活動PRフェア	9月7日	日	シビックセンター1階、地下 2階 展示室、区民ひろば	-	-	-	315	1	-	95	411	-	
文京ミ・ラ・イ対話① 街で健やかに子どもが育つ文京区	9月28日	日	シビックセンター5階 区民会議室	25	26	16	8	2	3	-	29	116%	
NPO活動PRフェア「振り返り会」	9月29日	月	シビックセンター5階 区民会議室	-	-	-	18	-	-	-	18	-	団体数14
文京ミ・ラ・イ対話② 暮らしやすい文京区を実現する地域力	10月1日	水	シビックセンター5階 区民会議室	25	31	24	4	1	6	-	35	140%	
社会起業アクション・ラーニング講座①	10月23日	木	シビックセンター5階 区民会議室	20	16	-	15	-	-	-	15	75%	
社会起業アクション・ラーニング講座②	11月6日	木	シビックセンター5階 区民会議室	20	(16)	-	13	-	-	2	15	75%	
社会起業アクション・ラーニング講座③	11月20日	木	シビックセンター4階 シルバーホール	20	(16)	-	7	-	-	2	9	45%	
文京ミ・ラ・イ対話③ まちで健やかに子どもが育つ文京区	11月30日	日	シビックセンター5階 区民会議室	25	12	12	-	6	-	2	20	80%	
文京ミ・ラ・イ対話④ 暮らしやすい文京区を実現する地域力	12月3日	水	シビックセンター5階 区民会議室	25	15	10	2	9	-	1	22	88%	
社会起業アクション・ラーニング講座④	12月14日	日	シビックセンター5階 区民会議室	20	(16)	-	10	-	-	-	10	50%	
社会起業アクション・ラーニング講座⑤	1月22日	木	シビックセンター4階 シルバーホール	20	(16)	-	13	1	3	3	20	100%	
文京社会起業フェスタ2015 (社会起業アクション・ラーニング講座⑥)	2月11日	水・祝	シビックセンター2階 小ホール	-	-	-	177	3	2	4	186	-	
社会起業アクション・ラーニング講座⑦	3月5日	木	シビックセンター5階 区民会議室	20	(16)	-	12	-	-	2	14	70%	
合計				-	-	151	720	25	15	117	1,028	-	

¹ 個人を特定した、地域活動応援講座、文京ミ・ラ・イ対話、社会起業アクション・ラーニング講座、文京社会起業フェスタ2015の参加者で集計

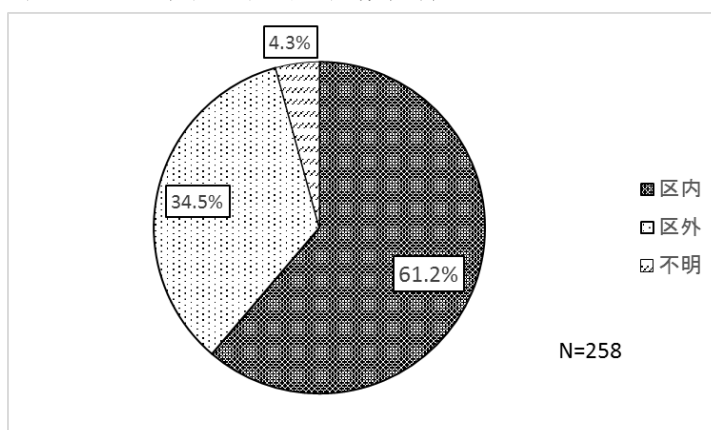
(2) 参加者属性

参加者の属性をみると、男性は48.4%、女性51.2%、また、区内区外では、区内61.2%、区外34.5%となっています。年齢別でみると、最も多いのが「40歳代」で全体の37.9%、次いで「20歳代以下」「30歳代」の18.4%となっています。属性分析としては、昨年度同様、20～40歳代が多いことが特徴といえます。

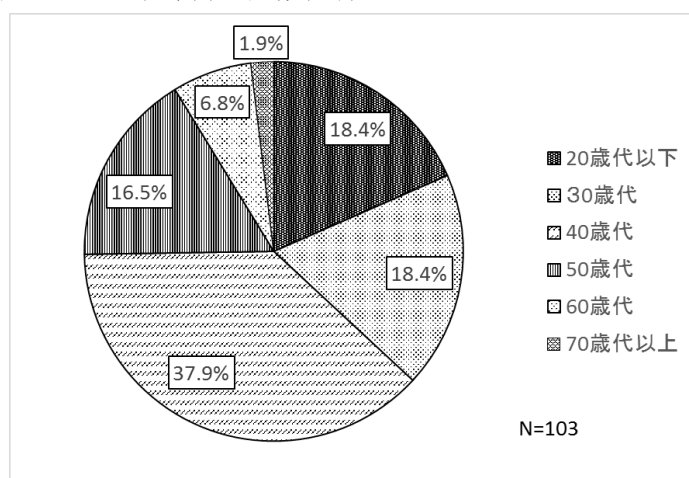
図表 全参加者男女別人数割合



図表 全参加者区内区外別人数割合



図表 全参加者年齢別人数割合²



² 年代を把握した、地域活動応援講座、文京ミ・ラ・イ対話、社会起業アクション・ラーニング講座の参加者（実数）で集計

3. プロジェクトを通じて生まれた課題解決プロジェクト等

本プロジェクトにおいては、担い手の状況に応じたプロジェクト支援を実施し、支援プロジェクトとしては昨年度の社会起業アクション・ラーニング講座の修了生から生まれたプロジェクトも含め3件を支援しました。また、登録プロジェクトとしては8件、本年度の社会起業アクション・ラーニング講座からはアイデア段階も含め12件のプロジェクトが生まれました。

(1) 支援プロジェクト

◇3件

プロジェクト名	団体名
■4月～7月期の支援プロジェクト【2013年度からの継続支援】 ・ハッピーファミリープロジェクト	子育て kitchen
■8月～11月期の支援プロジェクト ・地域版フューチャーセンター&心地よく暮らし、はたらく Loco-working 拠点「文京版 cococi」立ち上げプロジェクト [cococi2000]	株式会社 Polaris
・ ^{エシエル} échelleプロジェクト	échelle
■12月～3月期支援プロジェクト ・地域版フューチャーセンター&心地よく暮らし、はたらく Loco-working 拠点「文京版 cococi」立ち上げプロジェクト [cococi2000]	株式会社 Polaris

(2) 登録プロジェクト

◇8件

No.	プロジェクト名	団体名
1	「子育て」を地域で支える「寺子屋キッズ文京」プロジェクト ※2013年度社会起業アクション・ラーニング講座修了生プロジェクト	文京区囲碁指導者連絡会
2	地域コミュニティ情報共有の仕組み創りプロジェクト	TEAM 空
3	地域版フューチャーセンター&心地よく暮らし、はたらく Loco-working 拠点「文京版 cococi」立ち上げプロジェクト (cococi2000) ※支援プロジェクト	株式会社 Polaris
4	文京いきぬきプラットフォームの構築 ※2013年度社会起業アクション・ラーニング講座修了生プロジェクト	本郷いきぬき工房

5	「文京かるた」製作・普及プロジェクト ※2013年度社会起業アクション・ラーニング講座修了生プロジェクト	文京かるた隊
6	地域密着型ミュージックファシリテーター養成プロジェクト	株式会社リリムジカ
7	文京子育てサポートステーション	ひよこ教室
8	échelle プロジェクト ※2013年度社会起業アクション・ラーニング講座修了生プロジェクト、支援プロジェクト	échelle

(3) 社会起業アクション・ラーニング講座受講生のプロジェクト

◇12件

<p>■教育・青少年育成 関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分探検Lab^{ラボ}（自分探検研究所） ・子どもたちが社会に出ていくためにお父さんができること ・脳を耕せ！ Da Vinci^{ダ ヴィンチ} キッズ 育成プログラム ・通信制高校学習センター ・文京アートプロジェクト <p>■メディア 関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BUNKYO TALKER 文の京の地域課題&情報シェアサイト ・文の京 Regiocation <p>■女性支援・自立支援 関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明るく健康に歳を重ねる」～お灸を使ってセルフケア ・10代の女の子 ♥ 20代の女性のハッピープロジェクト ・中高年女性のマイライフプラン見直しサポート <p>■地域ブランディング等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小石川植物園サポーターズクラブ ・Project BAR（文京[Bunkyo]区の空き家[Akiya]を再生する。）
--

4. 担い手と担い手を支える人が交流できる基盤の構築

これまでに新たな公共プロジェクトに関係した人々がつながり、お互いに助け合える基盤の構築を支援しました。

<p>■文京ソーシャルイノベーションプラットフォーム交流会（登録者数 45人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の社会起業アクション・ラーニング講座修了生を中心とする自主活動グループ、「文京ソーシャルイノベーションプラットフォーム交流会」の立ち上げを支援しました。これにより、昨年度の社会起業アクション・ラーニング講座修了生、プロジェクト登録団体、プロジェクト支援団体
--

等、文京区で地域活動を行う人々が定期的に集まり、勉強会や交流会を実施できるようになりました。

・文京ソーシャルイノベーションプラットフォーム交流会参加メンバーによるメーリングリストを立ち上げ、その運営を支援することで、日常の情報共有が行える仕組みをつくりました。

■文京区 NPO 活動 PR フェア参加団体による交流会（登録団体数 25 団体）

・文京区 NPO 活動 PR フェアの参加団体による自主的な活動として、フェア開催後の交流会の実施を支援しました。

・文京区 NPO 活動 PR フェア参加団体によるメーリングリストの立ち上げ、その運営を支援することで、日常の情報共有が行える仕組みをつくりました。

Ⅲ. プロジェクトの成果

1. プロジェクトの評価軸の設定

本プロジェクトの一年の成果は、担い手創出に当たり重視した視点を踏まえ、次のような評価軸を設定しました。

【プロジェクトの評価軸】

- ① 行政などの既存の取組では対応しづらい地域課題に対して、新しいアプローチを生み出す・見出すことができたか
- ② 地域課題解決に向けて、区民による自発的・主体的な取組が生まれたか
- ③ 新たな課題解決型サービスを継続的に提供できる事業体は生まれたか
- ④ 担い手の事業によって、どれだけの区民がサービスの受け手となったか
- ⑤ 本プロジェクトに幅広い区民が参加できたか
- ⑥ 担い手を支え、共につくっていくコミュニティはできたか
- ⑦ プロジェクト支援はプロジェクトの継続力向上に、どのように貢献できたか
- ⑧ 新しい広報戦略の取組は効果を上げたか
- ⑨ 区職員はどれくらい参加し、職員の意識はどのように変化したか
- ⑩ 担い手を生み、育む仕組みができたか

2. プロジェクトの評価

- ① 行政などの既存の取組では対応しづらい地域課題に対して、新しいアプローチを生み出す・見出すことができたか

⇒本年度は、地域課題の解決プロジェクトとして一定レベルにあると判断されたプロジェクトの登録が8件、今後のプロジェクト登録・プロジェクト支援レベルまで発展する可能性のあるプロジェクトとして、社会起業アクション・ラーニング講座受講生のプロジェクトが12件生まれたことから、地域課題に対する新しいアプローチを生み出し・見出すことについて一定の成果があったものと評価できます。

◇本年度生まれたプロジェクトの数（プロジェクト登録、社会起業アクション・ラーニング講座）

⇒ プロジェクト数 20件

（プロジェクト登録 8件、アクション・ラーニング講座 12件）

② 地域課題解決に向けて、区民による自発的・主体的な取組が生まれたか

⇒プロジェクト登録の応募件数や社会起業アクション・ラーニング講座の参加者数、プロジェクト支援制度説明会参加者数等の状況から、自らのアイデアやプロジェクトを持ち将来の地域活動の担い手候補になる可能性のある数多くの層に、自発的・主体的な取組を促し、試行的な取組も生まれていることから、一定の成果があったものと評価できます。

◇区民の自発的・主体的な取組を促進するプログラムの参加者数等

○プロジェクト登録応募件数・社会起業アクション・ラーニング講座参加者数、支援制度説明会参加者数

- ⇒・プロジェクト登録応募件数 **11件**
・社会起業アクション・ラーニング講座参加者数 **16人**
・プロジェクト支援制度説明会参加者数 **35人**

○地域活動応援講座への参加者

- ⇒ コミュニティづくりを仕事とするには? **参加者 47人**
コミュニティ事業のプランづくりのコツ **参加者 27人**

なお、地域活動応援講座における参加者アンケート結果等からも、今後、地域活動の担い手候補になる可能性のある層を数多く見出すことができました。

◇参加者アンケート結果

○地域活動応援講座 (N=49)

- ・「何か活動をしたい人」と回答した人 **38.8%**
- ・「社会起業アクション・ラーニング講座に興味がある」と回答した人 **36.7%**
- ・「プロジェクト支援に興味のある」と回答した人 **55.1%**

○文京社会起業フェスタ 2015 (N=32)

- ・「何か活動をしたい人」と回答した人 **34.4%**
- ・「社会起業アクション・ラーニング講座に興味がある」と回答した人 **75.5%**

◇文京ミ・ラ・イ対話の中で出された地域活動アクション宣言数

- ⇒ 参加者によるアクション宣言数 **36アクション**

③ 新たな課題解決型サービスを継続的に提供できる事業者は生まれたか

⇒本年度は昨年度からの継続支援を含め、3件のプロジェクトを支援し、昨年度支援が終了した

プロジェクトも地域に根ざして継続的な活動が行われていることから、継続的なサービスが提供できる担い手の創出に一定の成果があったものと評価できます。

◇支援プロジェクト

⇒ ・2014年度支援プロジェクト 3件

- ①ハッピーファミリープロジェクト（子育て kitchen）【2013年度からの継続支援】
- ②地域版フューチャーセンター&心地よく暮らし、はたらく Loco-working 拠点「文京版 cococi」立ち上げプロジェクト（cococi2000）（株式会社 Polaris）
- ③échelle プロジェクト（échelle）

・2013年度支援プロジェクト 3件

- ①ハッピーファミリープロジェクト（子育て kitchen）
- ②文京映画交流クラブ（文京映画交流クラブ）
- ③地域ブランド「文人郷（ぶんじんきょう）」構築による地域連携事業（NPO法人街 ing 本郷）

なお、プロジェクト支援候補となった登録プロジェクトや、社会起業アクション・ラーニング講座受講生のプロジェクトについては、アイデアを事業として展開できるレベルにまで導いたものもあり、次につなげるための支援を行いました。

◇プロジェクト登録数

⇒ 6件（支援プロジェクトを除く）

（うち3件は、2013年度社会起業アクション・ラーニング講座修了生のプロジェクト）

◇社会起業アクション・ラーニング講座受講生のプロジェクト数

⇒ 12件

④ 担い手の事業によって、どれだけの区民がサービスの受け手となれたか

⇒地域活動のサービスの受け手については、プロジェクト支援団体やプロジェクト登録団体等が実施する事業などの参加者数等は、延べ2,237人であり、今後の更なる展開についても期待できることから、区民サービスの充実に一定の成果があったものと評価できます。

◇プロジェクト支援団体、プロジェクト登録団体、社会起業アクション・ラーニング講座受講生が実施した事業への参加者数・利用者数

⇒ 延べ 2,237人

⑤ 本プロジェクトに幅広い区民が参加できたか

⇒実施プログラムへの参加者数は、延べ1000人超と、昨年度の実績を大きく上回る実績を上げ、地域活動に関心の高い層に多くのアプローチができました。また、実施プログラムのリピート率

や参加者の受講動機等から、単にプログラムに興味があるだけでなく、ある程度何かをやってみたい人がリピートしていると考えられることから、地域活動に興味のある層へのアプローチに、一定の成果があったものと評価できます。

また、時間的制約等の理由から講座等への参加がしにくいと考えられる若年世代も参加しやすいように、実施方法等を工夫した結果、その世代から数多くの参加を得ることができました。

◇本プロジェクトの延べ参加者数

⇒ 延べ参加者数 1,028人

◇リピート参加率・平均参加回数

⇒ ・2回以上実施プログラムに参加した人の割合 **23.3%**
・2回以上実施プログラムに参加した人の平均参加回数 **2.7回**

◇年齢構成

⇒ 実施プログラムの年齢別参加割合

20歳代 18.4%

30歳代 18.4%

40歳代 37.9%

(20歳代から40歳代が全体の74.7%を占めている)

⑥ 担い手を支え、共につくっていくコミュニティはできたか

⇒文京社会起業フェスタ 2015 や文京ミ・ラ・イ対話等を実施することで、担い手と地域の人が直接交流できる基盤づくりを行いました。また、本年度は新たに NPO 活動 PR フェアを実施することで、NPO と区民、NPO 同士の新たなつながりも生まれました。さらに、これまで本プロジェクトに関わってこられた人たちが中心となり、担い手を支え、地域を共につくっていくための新たなコミュニティも生まれるなど、昨年度より更に発展した展開も見られたことから一定の成果があったものと評価できます。

◇文京社会起業フェスタ 2015 の状況

⇒ 参加者数 186人

- ・各ブースにおいて、参加者がプロジェクト発表者へ熱心に質問及びディスカッションする様子が散見された。
- ・各ブースにおいて、参加者とプロジェクト発表者の名刺交換等が行われ、事業の実施に向けてお手伝いを申し出る参加者も散見された。
- ・「いいね！シール」の貼り付けによりプロジェクトの共感度が見える化された。

◇文京区 NPO 活動 PR フェアの状況

⇒ 参加者数 411 人

参加団体数 26 団体

- ・各ブースや団体主催講座において参加者が団体関係者と熱心に質問及びディスカッションする様子が散見された。
- ・フェア開催後、参加団体による自主的な交流会が行われた。

◇文京ミ・ラ・イ対話等のゲスト、メンター等外部協力者数

⇒ 団体代表者や専門家等 25 人

◇文京ソーシャルイノベーションプラットフォーム交流会の状況

⇒ 勉強会等開催数 13 回 (3/31 現在)

メーリングリスト登録者数 45 人 (3/31 現在)

※本交流は、2013 年度社会起業アクション・ラーニング講座修了生が中心となって自発的に立ち上げた自主活動グループ

⑦ プロジェクト支援はプロジェクトの継続力向上に、どのように貢献できたか

⇒各々のプロジェクトの事業構築支援のプロセスにおいて、継続的に事業展開するに当たっての課題整理や地域における関係づくりを丁寧に行ったことにより、団体の成長が見られたことから、プロジェクトの継続力向上に一定の貢献があったものと評価できます。

◇プロジェクト支援によって生み出された成果

本年度、3 件のプロジェクト支援を行った結果、各プロジェクトには、下記の成果が見られました。(支援中のものは予定を含む。)

①ハッピーファミリープロジェクト (子育て kitchen) 【2013 年度からの継続支援】

- ・シンポジウムの開催

子育てに関連するシンポジウムを開催することにより、プロジェクトからの情報発信を強化し、認知度向上、共感者の獲得に努めました。

- ・更なる事業展開の検討

スタッフの増強、事業メニューの拡大など、事業拡大へ向けての実験的試みを行い、更なる事業基盤構築を図りました。

<支援が団体に与えた影響>

昨年度の支援では、事業の軸となるコンセプトを明確にすること、客観的な社会的意義を確立するためのアンケート調査等により事業基盤構築を行いました。本年度の第 2 クールでは、更なる事業基盤構築のため、スタッフの拡充や認知度アップのため、子育てに関するシンポジウムの開催を支援することで、コアな支持者以外の共感者の獲得に努めました。また、料理以外にもコンセプトの軸にそったワークショップの開催や、父親が参加できるプログラムの開発など、事業拡大に向けての試験的な試みについて、アド

バイス及びサポートを行いました。その結果、新たに区内に事務所を構えるまでに成長し、事業が拡大しました。

②地域版フューチャーセンター&心地よく暮らし、はたらく **Loco-working** 拠点「文京版 cococi」 立ち上げプロジェクト (cococi2000) (株式会社 Polaris)

・フューチャーセッション・座談会の開催

誰もが暮らしやすく働きやすい社会の実現に向けて、働き方や暮らし方を考えるためのフューチャーセッション・座談会を開催しました。これにより、プロジェクトのビジョンに共感し共に活動するメンバーを見い出すことができました。

・企業向け説明会等の開催

区内の企業から仕事の発注を得るため、企業向けの説明会や個別訪問等を行い、関係づくりに努めました。これにより数社との関係が構築でき、今後の受注につながる可能性が出てきました。

<支援が団体に与えた影響>

世田谷区で成功しているビジネスモデルを文京区で展開する予定であったものの、そのスキームの見える化が徹底していなかったことや、ソーシャルフランチャイズ独特の難しさもあり、まずは事業モデル確立や考え方の見直しについて支援しました。また、基盤のない文京区での区民や企業との関係性づくりにおいて、チームビルディングや、企業の紹介・営業方法の支援なども行い営業スキルの向上を促し、さらに、外部専門家を招き、社会起業における事業の考え方などの意識づけなど行った結果、区内において事業を継続していくための基盤づくりに進展が見られました。

③échelle プロジェクト (échelle)

・事業コンセプトを明確にするため、事業の意味、地域課題との関係性について課題を整理するための支援を行いました。

・ワークショップの開催やヒアリング等の実践を促すことにより、対象となる層のイメージがより具体化されました。

<支援が団体に与えた影響>

4 か月のみの支援となったが、試行的なアクションが実施されたことで、実際のサービスの受け手となり得る層の実態の把握が可能となり、事業イメージがより具体化されました。

⑧ 新しい広報戦略の取組は効果を上げたか

⇒昨年度に引き続き、特設サイトや、SNS 等の多様な広報媒体の活用により、これまでの行政のやり方では届けることができなかったと考えられる層にも、広く情報を届けることができたと言えます。また、本プロジェクトに関わっている人や団体の顔が見える広報にも力を入れたことで、facebook の「いいね」に代表される閲覧者の共感も伸び、実施プログラムの参加者も着実に増加しました。また、本年度に入り、取材や視察を受け入れる機会も増え、地域活動を始め

る人を新たに創出するスキームとして、教育機関や他の行政機関から注目されつつある状況もあることから、新しい広報戦略は一定の成果があったものと評価できます。

◇メルマガ登録者数

⇒ **642人** (3/31 現在)

◇facebookの「いいね」数(共感、支持者の数)

⇒ **640** (3/31 現在)

◇facebook 投稿記事の最大リーチ数(記事を読んだ人の数)

⇒ **1,316人** (3/31 現在)

◇メディア掲載

⇒ 以下、**計3回掲載**

- ・読売新聞(2/9)、朝日新聞(2/10)
- ・ぎょうせい「月刊 自治体ソリューション 1月号」

◇CATVの動画配信

⇒ 以下、**計2回配信**

- ・文京区 NPO 活動PRフェア(9/15～)
- ・文京社会起業フェスタ 2015(2/16～)

◇視察受入

⇒ 以下、**計6回 受入**

- ・世田谷区商業課(5/21)
- ・東京大学産学連携本部(9/17)
- ・180Degrees Consulting (NPO 支援を行う学生団体)(9/19)
- ・復興庁(10/15)
- ・(株)ぎょうせい(12/10)
- ・大阪商業大学総合経営学部(2/9)

⑨ 区職員はどれくらい参加し、職員の意識はどのように変化したか

⇒本プロジェクトでは、昨年度に引き続き、全庁的な取組に注力し、重点テーマの募集、文京ミ・ラ・イ対話への職員の参加、支援プロジェクトの事業構築への協力、協働推進に関する研修の受講などを通じて、職員が区民や地域活動の担い手と直接関わる機会を持ったことにより、研修では協働推進の必要性についての新しい気づきを得られている意見が数多く見られることから、職員の意識改革に一定の成果があったものと評価できます。

◇参加職員数

⇒ 対話の場等のイベントへの参加 **15人**

職員研修（協働推進関係）参加者数 **延べ 277人**

※その他、支援プロジェクト選考及びキックオフミーティング等において適宜関係部署の職員参加あり。また、組織横断的協働を推進する「協働推進委員会」が設置されています。

◇職員の意識の変化（研修参加者アンケートより）

1) 「新たな公共の担い手との協働推進研修」（全職員対象 参加者 42人）

<参加者アンケート>

- ・自分の意見が他の人と話し合うことにより、広がりを見せることが嬉しかった。
- ・ファシリテーターの役目の難しさやポイントをもう一度考えられて、少し分かった気がした。何度も経験することが必要だと思った。

2) 新任研修「協働」（新任職員対象 参加者 延べ109人）

<参加者アンケート>

- ・実際にどのようなNPOがあるかを知り、何か協働できるのではないかと考えながら仕事に従事していきたい。
- ・協働は、区が単独で行政サービスを行った場合では対応が難しい細かな部分にまで区民に対してサービスができるので、区民満足度向上のためにもできる限り協働を進めていった方が良かった。

3) NPO等地域団体派遣研修（入区3年目の職員対象 参加者 66人）

<参加者アンケート>

- ・NPOに「課題を解決してもらおう」、「ニーズに応じてもらおう」という投げやりな姿勢ではなく、あくまで対等の立場で協力し、地域課題を解決するという基本的姿勢を身に付けていきたい。
- ・NPOの事業に参加したことで、行政だけでは多様化する住民ニーズすべてを行うことが難しいということが印象に残るとともに、NPO等と協働しどのように住民ニーズに対応していくかを考えることが重要だと感じた。

4) 協働研修（基礎）（入区5年目の職員対象 参加者 42人）

<参加者アンケート>

- ・協働する際は、「区の財産は住民の共有財産」という協働する上で大切な理解を住民にもしてもらい、建設的に議論を重ねていきたい。
- ・所属する課が主体とならない協働事業でも、その一員として責任をもって協力や助言をするように心掛けていきたい。

5) 協働研修（応用）（係長職昇任3年目の職員対象 参加者 18人）

<参加者アンケート>

- ・公平性と相手を認めることが人とのネットワークの基盤にあることを念頭に置きながら、発

想の転換や幅広い考え方をしていくことが今後は更に大切であり必要になっていくのだと感じた。

・地域が抱える現状や背景から課題を挙げ、今後の解決策につなげていくという流れは、区の施策を考えていくことと重なることも多く、民間の目線で物事を考えるポイントなど学ぶことができた。

⑩ 担い手を生み、育む仕組みができたか

⇒担い手創出のための仕掛けとして、担い手の活動ステージに応じた各プログラムを企画し、それらを体系化して運営しました。昨年度の社会起業アクション・ラーニング講座の受講生から登録プロジェクトが生まれるなど、本プロジェクトの開始から2年で、実際に地域活動の担い手を生み育むスキームとしての一定の成果があったものと評価できます。

◇文京ミ・ラ・イ対話

・「地域課題を知る（区の課題認識をヒントに地域課題を知る） → 解決策を深める（社会起業アクション・ラーニング講座受講生の問題意識から解決策を考え、深める）」の2つのステップを踏むことで、区民が参加しやすく、既に活動を始めている担い手にも気づきがある対話を行いました。また、参加者に地域活動へのアクション宣言を行ってもらうことにより、地域活動の主体は、参加者一人ひとりであるとの意識づけを行いました。

◇社会起業アクション・ラーニング講座

・受講生は、16人と少人数となったが、受講生同士の交流も生まれ、お互い協力して実践していく土壌が醸成されました。また、講座に加え、個別相談会を2回実施することで、各々の事業のアイデアやプランの深堀を行いました。

・受講生は、講座だけでなく、メンターミーティングや文京ミ・ラ・イ対話、文京社会起業フェスタ 2015へ参加することを通じて、地域の人や専門家とつながる機会ができたことで、事業づくりに向けた新しい気づきを得て、地域活動の担い手としての成長がうかがえました。

◇文京社会起業フェスタ 2015

・支援プロジェクト、登録プロジェクト、社会起業アクション・ラーニング講座受講生が一堂に会し、事業プランの発表と参加者との交流を組み合わせたイベントを開催しました。各発表ブースでは、既に活動をしている人や何か地域で活動したい人、プロジェクトを手伝いたい人が積極的に発表者に声をかける場面が散見されました。昨年度の社会起業フェスタでの出会いによりサポーターを得て事業が拡大したプロジェクトもあり、このイベントを通じて、また新しいプロジェクトが生まれることが期待されます。

◇プロジェクト登録

・プロジェクト登録は、支援候補のプロジェクトとなることから、事業の更なる成長を図るため「プロジェクト登録団体会議」と「成長戦略策定ワークショップ」を開催し、登録さ

れたプロジェクトのブラッシュアップを支援しました。

- ・本年度もプロジェクト登録されたプロジェクトは、特設サイトでのPRや、文京区 NPO 活動 PR フェア、文京社会起業フェスタ 2015 での発表機会の提供等を通じて地域の協力者を得るきっかけづくりを支援しました。

◇プロジェクト支援

- ・プロジェクト支援は、4か月を1クールとした期間を設定し、各プロジェクトの状況に応じたきめ細かな支援を行ったことにより、担い手としての団体の成長がうかがえました。
- ・また、プロジェクト登録団体を対象に行った「成長戦略策定ワークショップ」によりプロジェクトのブラッシュアップを図ったことより、昨年度と比べ事業プランがレベルアップした状況でプロジェクト支援をスタートすることができました。

IV. 今後のプロジェクト実施に向けて

本年度の実施結果と成果を踏まえ、次年度以降に向けた主な課題と改善案をまとめます。

【主な課題と改善案】

○新たな視点による重点テーマの設定

本プロジェクトの重点テーマは、毎年度、行政の現場から出された「行政だけでは対応が難しい地域課題」をベースに設定してきました。しかしながら、挙げられたテーマと、地域の担い手が組みたいテーマが必ずしも一致しない状況もあり、また、2か年に亘り同じようなテーマとなったことで、テーマに広がりがなくなり、参加者の減少・固定化が懸念されます。今後は、大学等教育機関と連携し、時代背景を踏まえた文京区での対話に相応しい課題をベースにしたテーマの設定を検討していきます。

○広報媒体活用方策の検討

様々な広報面での工夫により、実施プログラムの延べ参加者が1000人超となるなど、参加者の増加に一定の成果を上げてきました。しかしながら、メルマガ登録数の伸びは少なく、facebookのリーチ数（記事を読んだ人の数）も減少するなど、本プロジェクトを更に活性化していくには必ずしも十分とは言えない状況にあります。今後は、受け手の満足度を高めるコンテンツの提供やニュースレターの発行回数の増加及び配布協力者の拡充などにより、メディアの特性を生かした更なる広報媒体の活用方策の検討を進め、参加者数の向上を図っていきます。

○「展開力向上支援」候補団体に対する支援

本年度は、展開力向上支援の候補になり得る、既に他地域で事業を成功させている団体のプロジェクトの登録もありましたが、ソーシャルビジネスのフランチャイズ展開については、実際には整えるべき課題も少なからず見受けられました。また、基盤のない土地での事業展開には、地域の中で共に活動するメンバーの組織化に想定よりも多くの時間を要することがわかりました。今後は、これらの課題について支援を受けた団体とも共有し、団体の支援に必要と考えられる方策の検討を進め、支援に生かしていきます。

○本プロジェクトの成果検証の実施

区としては、本プロジェクトにおける担い手創出のスキームを3年程度実施し、その成果等の検証を踏まえ、その後の事業の方向性を検討していくこととしています。毎年度の実績と成果については報告書としてまとめているところですが、3年目となる次年度は、専門家及び実務者による会議体を設置し、これまでの取組が地域にどのような効果を生み出したのかなど、成果を検証していきます。